

いんやま NEWS

vol.18
February 20 2020



●発行：日本ボーイスカウト東京都連盟 日野第2団 ●編集者：中村俊郎 ●住所：東京都日野市程久保4-7-14 ●ホームページ：<https://www.hino2.tokyo/>



クリスマス会に寄せて



高幡教会主任司祭
ペロッチェ・ジャンルーカ
(ルカ神父)

高幡教会の主任司祭のジャンルーカです。イタリア人で、聖書の福音記者のひとりであるルカと同じ名前をいただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

もうすぐクリスマスです。クリスマスはいろんなメッセージを伝えるものとして、キリスト教を信じる人々以外の国々でも受け入れられ、発展してきました。例えばきれいなイルミネーションを飾ったり、プレゼントを贈ることなどです。時々、「物を売りたい」という商業的なことになってしまう場合もあります。

キリスト教では、クリスマスはイエス様が人のお姿でお生まれになったことのお祝いです。神様は、人間と親しくかわって、神様のメッセージをよく伝えるために、御ひとり子であるイエス様をお送りくださいました。

正確には今から2023年前にイエス様はお生まれになりました。今のようにメディアもインターネットもない時代に、神様はイエス様のお誕生を羊飼いたちにお伝えになりました。羊飼いたちはそのころの社会で最も身分の低い、シンプルな心を持った人たちでした。そして、イエス様は馬小屋にお生まれになりました。今の私たちは家や病院で生まれるのが普通だと思いますが、イエス様の生まれたところはわらとフシかないような馬小屋でした。イエス様のこの馬小屋でのご誕生は私たちに大きな福音(よい知らせ)をもたらすものでした。神様は貧しい人と共にいてくださることの証でした。イエス様はこのようにご誕生され、十字架上で亡くなられるまでずっとご自分を低くして生きられました。

イエス様のお誕生をお祝いしましょう。私たちは皆一人一人が神様に愛されています。私も、高幡教会共同体も、皆様のことをお祈りしています。

クリスマス会ではルカ神父様よりミラノ外国宣教会から派遣されたばかりのパヴァン神父様のご紹介もありました。

～パヴァン神父様の自己紹介～

昨年の12月に日本に派遣されることを告げられました。そのころ私が持っていた日本についてのイメージは、「きちんとしてまじめ」というもので、自由な性格の自分に務まるのだろうかと不安を感じていました。8月に養成所を終え、11月に日本に来ました(来日した日はちょうど自分の誕生日でした!)。日本に来てから会う人たちはみなさん親切でやさしく、とても居心地がいいと感じています。1月から日本語学校に通います。今ひらがなカタカナを勉強しています。文字を何度も書いたり読んだりして、子供のころに戻ったような気持ちで楽しんでいます。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

2019年12月15日クリスマス会にて
(文責 片山)

スキーキャンプ感想文

2019年12月28日(土)から30日(月)の2泊3日で乗鞍スキーリゾートにビーバーからローバーまで全隊参加でスキーキャンプを行いました。テーマは「一つの家族で、いつも元気だ!!」です。小さいスカウトのお世話を大きいスカウトがする姿が見られ、とてもよかったです。今年は例年お世話になっていた「こだまさん」が手配の遅れもあって予約できず、スキー場から少し離れた青葉荘にお世話になりました。参加者は総勢36名でスカウト20名、指導者・保護者16名です。地球の温暖化によるのか、雪不足でした。やまぼうしリフトを中心に基礎訓練を行いました。スカウトたちは、初日に比べて帰る日には、自信を持って滑っており、子供たちの成長の早さを感じました。インフルエンザにかかることもなく、怪我もなく、楽しい充実したスキーキャンプができたことを感謝いたします。

(鈴木英彦)

ボーイ隊副長

甲野 慎太郎

スキーキャンプは日野2団で昔から行われている恒例行事です。私個人としても数年ぶりの参加でしたが、今年度も幾人の奔走があり何とか開催できたことに感謝したいです。

さて、スキーキャンプは団行事として幅広い年代が揃う機会です。スキーキャンプの位置づけは各隊それぞれですが、隊混同でのスキーや生活空間を共にする中で、スカウトは何か気付きがあったのではないかと思います。中でもボーイ隊は、年下のカブスカウトから見られ、年上のベンチャースカウトを見る、一番美味しい立ち位置での参加でした。

キャンプ後も年代間の連携と団としての仲間意識を忘れずに、日々の活動に取り組んでいけたらと思います。

令和2年も団一丸となってスカウト・指導者・保護者の力を合わせて楽しく有意義な活動ができることを祈ります。

ボーイ隊

桑原 大瑚

ぼくは去年、カブで初めて冬キャンプに参加しました。その時は最初の頃、八の字すべりもできませんでした。でもその後、友だちと行ったっりしてどんどんうまくなっていく気がして今回のキャンプで「パラレル」が少しでき

るようになりました。でももっと、うまくすべれるようになりたいです。

今年は、青葉荘という宿にとまらせていただきました。今年は、ボーイなので、カブをまとめたり、自分で考えて動くことが多いです。なので、みんなにおくれないようにがんばりました。

今年は雪が少なく、すべれるゲレンデがあんまりなかったけど、おおぜいですべてとても楽しかったです。

今回のキャンプはビーバーたい、カブたい、ボーイたい、ベンチャーたい、ローバーたい、リーダーという、全部の隊がそろいました。またこのメンバーでスキーができたらいいと思います。

ボーイ隊

竹平 和玄

僕は、12月28日から30日まで、乗鞍スキー場にボーイスカウトに入って初めてのスキーキャンプに行きました。

僕は幼稚園以来、スキーをやったことがなかったので、まっすぐすべるのにもしくじって、転んでしまいました。その後は、隊長としばらくすべって、まっすぐは転ばずにすべれるようになりました。

だから、二日目は「スキーか・・・」と少し落ちこんでいました。でもゆるやかなコースでたくさんすべったり、スキースクールもあったので、曲がる

などの動作もすこしできるようになりました。

三日目は、一日目と二日目の成果をもとに、すべりました。次は、足をくっつけて曲がる、ターンして止まるなどができるようになりたいです。

帰りのバスで、たちおうじょうしている車をリーダーたちがおしていたので、ボーイスカウトはこういうことができ、たのもしいなと思いました。

ボーイ隊

太田 智規

ぼくは、このスキーキャンプで、去年より上手にすべれたと思います。去年は転んでしまったゲレンデも転ばずにすべったりしました。

二日目のスキースクールのとき、プロの人にしっかり教えてもらって、今までまちがっていたのも直って、曲がるときは「かじゅう」「かいせん」「角づけ」を意識してやったり、体を動かして、うまく曲がれました。

また、他の人とぶつかったりしないように、速度を考えたり、すずらんコースの急カーブでは、下に落ちないように注意しました。

三日目に、急なしゃめんのゲレンデをすべりました。何回か転んだけれど下まですべり下りることができました。

来年は、もっと上手になるようになりたいです。

ボーイ隊**近藤 淳成**

僕は、今回のキャンプでG B(グリーンバー)に出席しました。G Bは、班長、副班長がでる会議の事です。このG Bでも、班長として参加しました。

だから、しかられたり、班員をだまらせたり、明日の予定のへんこうをメモしたりしてとても大変でした。連絡の伝え忘れや、さわぎ続ける奴がいたり、それでしかられたりして、とても大変でした。

毎回、評価・反省などをきかれたり、このキャンプは、何をしたいのかと問われたり、何を言えばいいのかを考えながら班員を見たりして、一度に2つ3つの事を考えなければいけなかったからすぐつかれました。

次からは、こういうことに慣れていかなければと思います。

ボーイ隊**石田 大智**

僕は今年のスキーキャンプでスキーのスキルを確実に向上させられたと思います。そう思う根拠は自分が滑った跡にある。というのも、スキー板の跡の綺麗さがスキーのスキルをよく表していると今回のスキーキャンプを通じて思うようになったからである。

つい昨年まで、僕はスキーを感覚で滑っていた。特に上手く滑ろうとは意識せず、ただ斜面を下るだけであった。パラレルターンは上手くなりたいという志のようなものはあったが、そこに向かって何かしようとは殆ど考えていなかった。しかし、山崎リーダーやスケールの先生などに“上手い滑り方”について教わり、上手く滑るということに大きく意識がいった。特に山崎リーダーに教わった“3K”のうちの角づけを意識するようになった(“3K”とは加重、回旋、角づけ総称)。なぜなら、加重と回旋を上手い具合に調整しなければ角づけはできないと思ったからだ。僕は、それを学んだ時からスキーキャンプが終わるまでずっと角づけを意識して滑り続けた。

実際練習してみると、綺麗に角づけをするのが難しく、なかなか上手いかなかった。そこでリフトに乗っている間にも上手い人の滑り方を見るなどしていた。

様々な人からのアドバイスから、自分の体重移動は緩急が激しすぎるとわかったので、緩急を緩やかにやろうと思い、実践すると上手くいった。綺麗に残った自分の滑った跡を見ると、なんだか少し誇らしくなった。

今回ほど滑り方を意識したのは、初めてな気がする。今年のスキーキャンプはあまり雪が降り積もらず、解放されたコースがとても少なかった。それは一般的にいろいろなコースで滑れずマイナスなイメージになる気がするが、僕にとってはかえって基礎的な練習を固める場としてプラスに働いた。

スキーへの向き合い方が大きく変わるきっかけとなってよかったと思う。

ベンチャー隊**石塚 愉吉**

私はスキーキャンプを終えて感じたことが三つある。

一つめは、バス運転手さんのすごさである。巨大なバスをあつかうのは難しいであろうし、食事の時は見知らぬ人とも会話も弾んでいた。ぱっと見、若そうであったし、すごいなと思った。

二つめは、長野は寒いということである。東京からちょっと北に移動しただけでこの寒さである。ロシアって人が住む場所ではないのだなと改めて感じた。

三つ目は、スカウトの人数についてである。おれが、カブスカウトの時、こんなに人がいなかったと思う。というか私の年代、少ないと感じた。こやつらは少人数での行動を知らないのだなっハハハハと思った。ああ、冬だなあ。

ローバー隊**上田 晟生**

今回は、僕はカブ隊の副長補としてこのスキーキャンプに参加させていた

できました。

夏キャンプ以来、このキャンプまでは北海道にいて、ボーイスカウトの活動から離れていることもあって、初日はとても不安でした。リーダーたちとどう話せばいいのか、スカウトたちとどうコミュニケーションをとればいいのか、とても悩みました。

でも、リーダーや同期のローバースカウト、そしてスカウトのみんなの元気に助けられて無事三日間のスキーキャンプを終えることができました。

この三日間を振り返ると、いたらないところも多くあったように思います。僕はまた北海道に行ってしまいましたが、また春に帰ってきたときに、スカウトたちの活動をもっとよりよくサポートできるようにしたいと思います。

ローバー隊**石塚 大和**

僕はボーイ隊の指導者として参加しました。スカウトたちの時間厳守が甘いと感じました。集合時間になっても当たり前のように部屋でダラダラしている場面がたくさんありました。隊全体のためでなく、団全体で活動しているという認識を最初に伝えるべきだったと考えています。一度ガツンと怒られる経験が必要だと思います。

隊の指導者は忙しくて大変でした。スカウトとして参加していたころは、「リーダーは楽しそうにしてコーヒー飲んでいいなあ」と考えていましたが、スカウトの安全や体調、また時間の管理等、指導者として準備しておくことが多い。風呂に入る時間もないぐらいでした。

今回のスキーキャンプは宿が変更になったり、雪が降らなかつたりと例年と比べると特異なことが重なりました。ですが、スカウトたちも大きくブレることなく活動に参加してくれたことに感謝したいと思います。

カブ隊**傳田 美来**

私はキャンプで楽しかったことは3つあります。

一つ目はいっぱいすべれたことです。私はすべるのは得意なのでいっぱいすべれました。

2つ目はダウンヒルに行けたことです。2日目はあまり雪がなくてカチコチだったけど3日目は雪がふってふかふかになってたので楽しかったです。

3つ目はすずらんコースでリーダーときょうそうしたことです。リーダーははやいけど楽しかったです。来年はリーダーをぬかしたいです。

カブ隊**花田 希実**

1日目はひさしぶりですべれるかしんばいだったけれどちゃんとすべれてよかった。

2日目はスクールに入って自分のいところわるいところをおしえてもらえた。いろいろ気をつけてすべることができた。

3日目はさいごのスキーでいっぱいやりたかったけれどさむすぎるし、ゴーグルはくもるしでうまくできなかった。スキーが終わってからのおふろはあつかったし、白っぽい色でさいしょははいりずらかったけれど、だんだん来てきてあったかいと感じられるようになってよかった。カブさいごのスキーはとても楽しかったです。

カブ隊**伊藤 すみか**

すべってころんでしまったけどそのおかげですべりかたをおもいだした。おふろがくさかった。たぶんいおうのくささだとおもう。男子ベヤのおかたづけにてまどった。かもしかにいけなかったのがざんねん。

カブ隊**丸川 るか**

12月29日に雪がすくなかったからブレーキがあんまりできなかった。カモシカコースができなかった。はじめてターンができた。

カブ隊**丸川 なぎ**

班のはなしをきけるようになった。スキーがうまくできた。男ベヤのかたづけとかができなかった。リーダーにいわれたことをじっこうしなかった。おやぶんなのにリーダーのいうことをきかないであそんでいた。

カブ隊**横瀬 颯太**

いちばん上のさかからころばずにすべれた。カモシカコースをすべることができなかった。かんたんなコースならかだったかころばずにできた。キャンプで4分でねることができた。キャンプでしょくじのとき、じかんないにたべることができなかった。スキーを足につけながらかいきやくであるけた。ふるのたまごのおいをがまんできた。じかんないにおきることができた。今日のカレーをおかわりできた。リフトにのることができた。

カブ隊**山崎 那奈子**

私はスキーキャンプで一番たのしかった日は二日目です。雪もふっていないてはれていきもちよかったです。またダウンヒルに行ったのでたのしかったです。でもスキー教室はあまりたのしくありませんでした。もっとハードなところをやりたいのにやらせてくれないからです。

午後はものすごくたのしかったです。でもかもしかやとりいおねに行けなくてつまりませんでした。ゆめのおかりフトものれなかったの、なんでも思いました。二日目は一番楽しかったです。

カブ隊**向山 そふい**

12月の30日はゆきがふっていてスキーからかえるときとてもねっくおーまーがかちんちんだったのでねっくおーまーがさむかったです。だからわたしは「はやくかえりたいはやくかえりたい」とわがままを言ってけっきよくスキーをとちゅうでやめました。

カブ隊**おく田えいと**

きゅうなコースでよこにしてすべることスキーのすずらんコースできゅうな回るばしょを上手くすべったこと。スキーしよきゅうのコースのやまぼうしのばしょを、上手くやった。3日目で2回ころんだ。スキーのきゅうなばしょでほかの人とぶつかった。スキーのすずらんコースで、すこしころびそうになった。スキーせんしゅをとったこと。スキーで、ももせ先生に、教えてもらって上手くなったこと。



活動

かつどうだより

便り

クリスマスリース作り (ビーバー隊)



2019. 12. 8.

合同クリスマス会



2019. 12. 15.

冬のスポーツ ~スケート~ (カブ隊)



2020. 2. 2.

ボーイスカウト、ガールスカウト 合同新年お餅つき

今年も1月12日(日)に例年通りお餅つきをこの一年の始まりの活動として行いました。今年も米軍横田基地、厚木基地のガールスカウトの方々も参加いただき、国際交流もはかれて、楽しいひと時を過ごすことができました。

今年も明るく元気よく人と人の繋がりを大切にしていきたいと思います。

(鈴木英彦)



日本カトリックスカウト協議会 東京大司教区支部 B P 祭合同ミサ

2月11日はスカウト活動の創始者であるベーデンパウエル卿の誕生日を記念して東京のカトリック教会や学校、幼稚園で活動しているボーイ・ガール、総勢約700人がカテドラルに集まり、記念ミサを行いました。

司式は菊地大司教様が行ってくださり、9名の神父様も参加いただきました。4名のキリスト教章の授与、1名の顕彰式を行い、スカウト全員で弥栄を聖堂内一杯の大きな声で贈ることができ、受章したスカウトも今後の励みになることでしょう。

今回のテーマは「見つけてみよう、神さまが創られたもの」です。私が印象に残ったのが共同祈願です。このテーマに沿って、素晴らしい共同祈願でしたのでご紹介したいと思います。

【田園調布教会ガール・ジュニア

Aさん(家族)とBさん(友達)
神様、私達にはいつも支えて下さる家族がいます。家族は、わたしたちと同じように喜び悲しんでくれる、大切な存在です。わたしたちが、家族に感

謝の気持ちを伝える事ができますように。

神さま、私たちは、何かうれしい事悲しい事があった時、いっしょに喜びなぐさめてくれる、友達があります。そんな友達にいつも感謝の気持ちを持ちさらに、友達の輪が広がっていきますように。

【キリスト教章を受章した

つくしの天使幼稚園ベンチャーC君

世界のスカウト仲間にありがとう。スカウトの創始者である、ベーデンパウエルは「幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えるにある」とのメッセージを全世界のスカウトに残してくれました。

私たちも色々なことに関心を持ち、「いつも他の人々をたすける」ことができますように導いてください。

【キリスト教章を受章した

つくしの天使幼稚園D君

神さまにありがとう。

私たちスカウトは、自然の中でキャンプなどの活動をしています。神さまがくださった、この素晴らしい自然の中で一つ一つの命を見つけて、大切に、自然にも、人にも優しいスカウトになれるように。

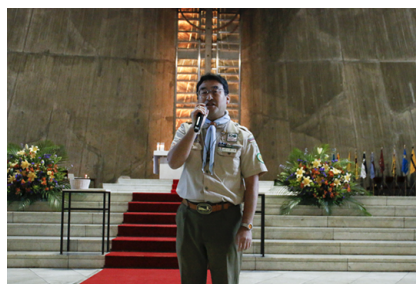
【高幡教会ガールスカウト

指導者Eさん】

新型コロナウイルスが流行しています。中国、日本をはじめ世界各地で苦しんでいる方々が、一日も早く快復されますように。

また、その治療に尽くされている方々にどうかお力をお与えください。

(鈴木英彦)



2月11日、スカウト運動の創始者であるベーデンパウエル卿の誕生日をお祝いする記念ミサが、東京カテドラル聖マリア大聖堂において、菊地大司教様とカトリックスカウトが所属する教会の司祭団の共同司式で開催されました。

毎年一回、2月22日のベーデンパウエル卿の誕生日に近いこの時期に、都内のカトリック教会と学校が育成母体のスカウトが一同に会して行われますが、今年も私たちサンタ・ルーチェ・スカウトを含め17教会と、学校団3個団で合計677名のスカウトと指導者が参加しました。

午後からは、日野2団の各スカウト隊はそれぞれ独自プログラムで都内散策に出かけて、暖かい陽射しの下、普段活動している多摩地域の里山とは違った都心の散策を存分に楽しんだようです。

私はJCCS東京支部長という役務柄、東京支部のユーススカウトが運営する交流プログラムを見学。年代別に分けて実施した「神さまがつくられたもの」をみつける課題探索ハイクでは、途中の公園で暖かい日差しを浴びて美味しくなお弁当を食べるスカウトや、楽しくて公園の遊具で遊んでしまい、なかなか先へ進まないスカウトのグループをみて微笑ましく感じました。

スカウトたちが笑顔で楽しく活動している姿をみるのは、指導者冥利につきるな…と、改めて感じた次第です。

無事に滞りなく全部のプログラムを終えることができ、サンタ・ルーチェ・スカウトの指導者として、またJCCSの支部長としても皆さんに感謝申し上げます。

「キリストの心は、神を愛すること、人を愛することです。私はよいスカウトになり、キリストの心を私の心にします。アーメン…」

日野第2団ベンチャー隊長

(JCCS東京支部支部長)

川原 聡